

E

ELDER

エルダーの旅便り

2004
冬号
12月～3月
プログラム

エルダー旅倶楽部 世界を舞台に楽しく学ぶ大人の教室

通巻167号

星降る里・芦別のまちづくり
その原点は「お祭り」にあり

「エルダーの旅」は、自治体のバックアップにより講座を開催するケースも少なくありません。なかでも北海道芦別市は芦別ホスピタリティとよべるほどに思いが伝わってきます。林 政志市長にお話をうかがいました。

空知川が流れ、星が降るまち

私たちのまち・芦別は、北海道のと真ん中。人気テレビドラマ「北の国から」の舞台、富良野は隣りまちです。富良野人気をちょっとうらやましく思う今日このごろですが、芦別もいいところです。

私はこのまちで生まれ育ちました。子どものころといえば、春は雪解けを待って野山に出かけ、夏は魚釣りやクワガタ捕り、秋は山ぶどうを摘んで食べ、冬は竹スキーで雪だらけになって遊んだものでした。

かつては人口7万6000人を誇る炭鉱のまちとして栄えましたが、エネルギー政策の転換により閉山が相次ぎ、いまでは人口が2万人を割り込んでいます。一方、面積はとにかく、なまら（北海道弁で「とても」の意）広い。まちの中心を空知川が流れ、自然豊かでなんといっても空気がきれい。ですから、輝く星空もぼちり見えます。

開拓精神を引き継いだ 新たなまちづくり

この「ふるさと芦別」を守り、次世代に自然豊かなままで引き継いでいきたい。私はそんな思いから、平成の大合併には参加せず、北海道内でいち早く自立の道を選択



2003年2月芦別講座。中央が林市長

しました。人口を増やせないのであれば、「みなさんにお越しいただき、ここで元気になってもらおう」と考えたのです。〈四季の彩り、ふれあいの舞台（まち）〉をキャッチフレーズに、交流人口の創出に取り組み、全日本女子バレーボールチームの合宿地にご指定いただいたり、お祭りやイベントによるお客さまも増えてきました。

そしてなんといっても、これまで芦別講座にご参加いただいたみなさんには、講座を通じて芦別ファンになっていただきました。そのとき私は感じました。みなさんといっしょに、お祭りを見たり、餅つきをしたりしながら、私自身が元気と勇気をいただいている。尽きることのない向学心、好奇心、その行動力。まだまだ見習わなければならぬ、負けてはいられません。

芦別は、「勇気、やる気、元気」をもって「身の丈に合ったまちづくり」を今後も進めていきます。温かい、ほっとする、そんなふるさとを守りつづけていきます。みなさん、ぜひ一度、お越しください。私も先頭に立って大歓迎します。

⇒星降る里・芦別講座は7ページに掲載

北海道芦別市長
林 政志 Hayashi Masashi

昭和15年生まれ。早稲田大学商学部卒。芦別市議を経て平成7年から現職。趣味は囲碁とゴルフ。コーヒーをこよなく愛し、お酒は一滴も飲めない。信条は「まちづくりの原点は、お祭り」にあり。市長就任前から、芦別健康山笠では締め込み姿で走る。市職員の採用面接では、男性には必ず「僕といっしょにお尻を出して祭りに出られるかい？」と尋ねるといふ

